

2009年度 学期 後期	曜日・校時 木・4	必修選択 選択	単位数 2
授業科目(英語名)	平和講座 On the Peace		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類	総合科学科目
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 安部俊二 /Eメールアドレス: abe-s@nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 教育学部本館6階617研究室 / TEL: 819-2309 / オフィスアワー: 水曜15時から16時まで			
担当教員(オムニバス科目等)	舟越耿一、藤澤秀雄、西岡由香、安井幸子、高橋眞司、長崎新聞記者、三根眞理子、葉柳和則		
<p>授業のねらい</p> <p>この文教キャンパスは三菱兵器製作所大橋工場の跡地であり、ここでは学徒動員令や女子挺身勤労令などによって動員された若き男女が航空機用魚雷の生産に従事中、原爆によって、その多くが爆死しました。</p> <p>敗戦後、日本は「人間相互の関係を支配する崇高な理想を自覚し、国家再建の基礎を人類普遍の原理に求めて戦争を放棄し、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して安全と生存を保持しよう」と決意しました。</p> <p>本講座は、その決意を受け継ぎ、平和を愛し探究心に富む学生諸君の思索と生活の原点に資すべく基礎的資料と基本的な分析論理を提供しようとするものです。</p> <p>授業方法</p> <p>各講義ごとに、担当者が講義に必要なプリントを用意し、授業を行う。講師によってはビデオなども利用する。</p> <p>授業到達目標</p> <p>戦争の実態についての認識を深め、世界の情勢を深く理解し、基本的人権を尊重して自由と平和を愛する文化国家の建設に努める態度を身につける。</p>			
<p>授業内容(概要)</p> <p>授業内容は多岐にわたるので、各講師がテーマを掲げて講義する。</p> <p>第1回(10月1日) 舟越耿一 「ナガサキから平和学する」</p> <p>第2回(10月8日) 藤澤秀雄 「講義の目的、方法、レポート作成について」</p> <p>第3回(10月15日) 西岡由香 「世界から見たナガサキ—90分間世界一周—」</p> <p>第4回(10月22日) 西岡由香 「原爆とキリスト教」</p> <p>第5回(10月29日) 藤澤秀雄 「自伝的昭和史①小学生から見た日本の戦争」</p> <p>第6回(11月5日) 藤澤秀雄 「自伝的昭和史②戦争とは、戦場とは、そこで何が行なわれたか」</p> <p>第7回(11月12日) 藤澤秀雄 「自伝的昭和史③戦時におけるアメリカ合衆国の戦争」</p> <p>第8回(11月19日) 安井幸子 「私の被爆体験」</p> <p>第9回(11月26日) 高橋眞司 「永井隆と秋月辰一郎」</p> <p>第10回(12月3日) 高橋眞司 「核時代の死と生」</p> <p>第11回(12月10日) 高橋眞司 「戦争と平和—九段階接合理論—」</p> <p>第12回(12月17日) 長崎新聞記者 「長崎で原爆を報道する」</p> <p>第13回(1月14日) 三根眞理子 「①長崎原爆と医科大学②原爆直後の調査」</p> <p>第14回(1月21日) 三根眞理子 「③被爆者の健康管理」</p> <p>第15回(1月28日) 葉柳和則 「被災の記憶とその継承」</p> <p>* 11月19日は被爆体験講話の予定です。</p> <p>* 特別レポート作成についての問合せは、藤澤秀雄(Tel.095-882-5954)まで。</p>			
キーワード	各講師が掲げたテーマに記述されている言葉の他には、防塁、防空頭巾、高射砲、焼夷弾、米国の爆撃機 (B17~B52)、枯葉剤、ナパーム弾、特高、特攻、特殊潜航艇、航空母艦、原子力潜水艦、イーギス艦、トマホーク、ICBM、軍人、軍用機、二階級特進、靖国神社、従軍看護婦、慰安婦、慰問袋、千人針、劣化ウラン弾		
教科書・教材・参考書	教科書は用いないが、プリント資料を適宜配布し、またビデオやスライドなどを利用して講義の理解を深めるのに役立つ。 最初の講義日に参考図書リストを配布する。		
成績評価の方法・基準等	講義への積極的な取り組みを重視する立場から、課題レポート(70%)、講義への貢献度および担当講師が課したレポートの成績(30%)で評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			